

長尾和宏様

はじめにお便りを FAX させていただき、失礼を  
お詫し下さい。

新聞で先生が出版された「胃ろうという選択 しじ、選択」の  
本の広告を見つけ 書店で探しましたが見つかりませんでした。

そして 別の書店に電話をして、その本を手に入れることが  
できました。

私の父は肺炎で入院していました。おせて誤嚥を繰り返すので  
先生から、これ以上食べさせるのは無理と言われ、土日間に  
点滴が胃ろうが 家族で相談して決めてくださいとのことでした。

頭の中はその事ばかりで、小皿で夜布団に入っても 横たわってても  
泣き着いてはくれず 起きてしまいます。もう口から食べさせてやれないのがと  
考えると辛くて 頭がどうか振り回りました。

先生の本を読んで 胃ろうについてよく知ることができました。知らずに  
間違えた選択を、しなくてよかったと思います。

父は熱と痰と 戦って 息を引き取りました。

人間として最後まで食べる、ということが出来るのは 悲しい事だと思えます。

「本人が食べたいのであれば、一口でも食べさせてください」とお願

いしましたが、それで良かったと思っています。

長尾先生の本に出会えた事、感謝しています。ありがとうございました。